

平成29年度の要請訪問を振り返って

県北教育事務所では、先生方と事務所をつなぐ架け橋として、「【県北版】リーフレット」を作成し、平成29年4月に先生方一人一人に配付しました。

このリーフレットの3ページに、先生方と事務所が授業実践を振り返る共通の指標として、問題解決的な学習を中軸とした授業の充実を図るための「授業づくりの6つのポイント」を示しました。

そこで、平成29年度の要請訪問について、共通の指標である「授業づくりの6つのポイント」の観点に照らして振り返り、成果と課題を以下のようにまとめました。

授業づくりのポイントごとの成果と課題を読んで、授業改善の手がかりをつかんでいただき、日々の指導に磨きをかけていただければ幸いです。



問題解決的な学習を中軸とした授業の充実 <平成29年度【県北版】リーフレットp3>

授業づくりのポイント1	
単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫	
小中の系統性	○ 小学校から中学校までの系統性を踏まえた授業が増えてきている。小・中学校の連携や接続を意識して授業づくりをしようとしている。
各種調査の活用	○ 全国学力・学習状況調査や福島県学力調査の結果分析を丁寧に行い、自校の課題を明確にして、単元構想に生かしている学校が増えてきている。
目指す姿の設定	● 単元を構想する際には、子どもにどのような力が身に付いているのかをとらえ、目指す姿（単元の終了時点でどのようなことができるようになっているのか）を設定しておきたい。

授業づくりのポイント2	
ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業設計	
つながりの意識化	○ ねらいからまとめまでのつながりを意識した授業案が多く見られるようになった。
構造的な板書計画	○ 板書計画の作成によって授業のポイントが明確になり、振り返りに役立つ板書が増えてきた。
具体的な手立ての明確化	● 授業の各段階で、子どもが自ら解決に向けて取り組むための具体的な手立てを明確にしておきたい。

### 授業づくりのポイント3

#### 必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決の見通しをもたせる工夫

学習課題の設定	○ 子どもの問いを引き出すことのできる課題や提示方法の工夫など、子どもが学ぶ必然性を感じられるような学習課題の設定を工夫した授業が多くなってきた。
解決の見通し	○ 既習事項を掲示したり、導入で振り返ったりすることで、本時の解決の見通しをもたせる工夫が多く見られた。
見取る場面の設定	● 見通しをもつ段階では、すべての子どもが見通しをもっているかについて、教師が確実に見取る場面を設定する必要がある。

### 授業づくりのポイント4

#### 思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実

思考を促す発問	○ 「問い返し」や「揺さぶり」等を適切に行い、思考を促す発問を吟味・工夫して授業に臨んでいる姿が多く見られた。また、思考を促す発問について組織的に研究をしている学校もあった。
見取り、生かす	○ 座席表等を活用したり、ノートの記事や発言を参考にしたりして、子どもの考えを積極的に見取り、引き出し、生かそうとする授業が多く見られた。
全体と個別のバランス	● 次の展開に生かすための全体を見渡した意図的な机間指導と、つまづきのある子どもへの個別支援とのバランスを取りながら、学習状況を把握する必要がある。そのためにも、予想される反応は想定しておきたい。

### 授業づくりのポイント5

#### 思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上

思考の可視化	○ ホワイトボードや付箋紙、思考ツール、ICT機器等を効果的に活用し思考の可視化を図ることで、ペアやグループの中で共有・吟味を促すような取組を行う授業が増えてきた。
視点の明確化	○ ペアやグループ学習を行わせる際、教師が学び合いの視点を明確に示すことで、思考の共有・吟味が効果的になされる授業が増えてきた。
状況に応じたコーディネート	● 意見の伝え合いに終始してしまう授業が見られた。教師自身が小集団活動を行わせる目的をしっかりととらえるとともに、学び合いの中で、どんな言葉や考えを実際に出させたいのかを具体的にイメージすることで、学び合いの状況に応じたコーディネートが行えるようにしたい。

### 授業づくりのポイント6

#### 学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

子どもの言葉を使ったまとめ	○ 子どもの言葉を使ってまとめを行っている授業が増えてきた。授業の途中で、めあてに立ち返って学習に取り組ませることで、本時の学習のねらいに合った言葉が子どもたちからスムーズに出てきていた。
振り返る視点の明確化	○ 予想とどう違ったか、何がわかったか、何ができるようになったかについて記述を求めるなど、視点を明確にした振り返りの場が設定されるようになった。
時間の管理	● 振り返る活動までいかずに終了する授業が見られるので、導入から展開までの時間管理を行い、まとめや振り返りができる時間の確保をしていきたい。

「平成29年度 学校教育指導の重点全体構想」の中に示された「学習集団づくり」と「特別支援教育」のチェック項目に照らして、以下のように成果と課題をまとめました。

項目ごとの成果と課題をお読みいただき、各学校や先生方一人一人の取組の充実のために御活用ください。

## 学習集団づくり

### 学級・学習集団づくり ～安心感・存在感・向上心～

互いに認め尊重する

各教科や道徳教育、特別活動などの場面を通して、子どもが相手を認め、尊重し、相手の考えや意見を踏まえて自分の考えを発表できる力を伸ばさせようと努力している学校が多く見られた。今後、ユニバーサルデザインを意識した学級経営や学習指導を工夫することで、よりよい学習集団づくりにつなげていきたい。

リーダーの育成

各教科や特別活動などの時間において子どもに役割分担をし、その責任を果たすことを通してリーダー性を高めている授業が多く見られた。今後もこの指導を継続するとともに、さらに子ども一人一人のよさを見だし、個性を発揮、伸ばできるようにすることが大切である。

個を認める称賛

子どもの多様な考えを称賛し価値付ける場面が多く見られるようになってきた。個を生かした多様な考え・表現を尊重することを継続し、子ども一人一人が自信をもち、安心して学習に取り組める学習集団の育成に努めていくことが大切である。

小・中学校の連携

中学校区単位で学習の約束事などを共通にし、各計画・記録を引き継ぐなど、小学校から中学校へのつながり、連携を意識した取組が見られた。効率的な授業づくりのために、小学校低学年からの学習訓練や学びのルールの徹底を図っていくことが大切である。

## 特別支援教育

### 特別支援教育の充実 ～「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進～

校（園）内支援体制の充実

管理職のリーダーシップのもと、特別支援コーディネーターを中心に、校（園）内支援体制を整備して、ケース会議を実施している学校が増えてきた。

ニーズに応じた指導の充実

「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・活用を通して、目標に迫るための具体的な手立て、教材等が準備され、主体的に学ぶ子どもの姿を見ることができた。

教職員間の連携

支援員の配置については、特別支援コーディネーターや学級担任と「どこでどのように支援に当たるか」について検討、共通理解が図られ活動が円滑に進んでいる。交流及び共同学習においては、双方の担任間でねらいを焦点化し、効果的な実施方法を確認するとともに、支援員とも共有することが大切である。

関係機関との連携

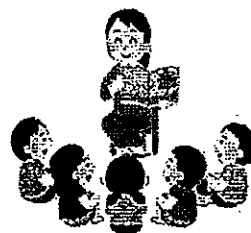
校内ケース会議の開催や特別支援学校による相談支援を行い、子どもの行動の背景を考察しながら支援するなどし、改善に向かうケースが見られた。相談支援後、地域の相談支援事業所や医療機関等とつながるなど、地域の関係機関との連携が図られたケースもあった。

## 幼児教育(幼稚園)における保育のチェックポイント

保育を振り返る際の資料として活用できるように「保育のチェックポイント」を示しました。

「チェック」欄は、日々の保育を振り返ったり、園内研修での協議資料にしたりして保育の充実を図るために御活用ください。なお、「保育の充実」欄の内容は、5領域の指導の重点です。

必要に応じて加筆・修正しながら各園の実態に即した内容に変更し、さらに保育を充実させてください。

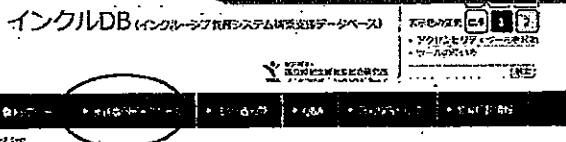


項目	意識したいこと	チェック	
指導計画の作成・改善	長期的な見通しをもった特色ある指導計画を作成している。		
	短期的な計画と関連付けた指導計画の改善に取り組んでいる。		
	家庭、地域社会、学校等と連携・協力して指導計画を作成している。		
	子どもの生活・発達・学びの連続性を踏まえた指導計画を作成している。		
保育の充実	健康	幼児期運動指針を踏まえながら、体を十分に動かし、楽しめる遊びの内容・方法・場を工夫している。	
		教師、子ども同士と一緒に楽しく食べる雰囲気づくりをしている。	
		安全に落ち着いて生活できる施設・設備の工夫をしている。	
	人間関係	自分の力で行動することの充実感を味わわせる遊びを設定している。	
		身近な人と親しみ、かかわりを深める教師としての支援をしている。	
	環境	発見を楽しんだり、考えたりする身近な環境にかかわらせる機会を充実させている。	
		物の性質や数量、文字などに対する興味関心を引き出す場を設定している。	
	言葉	自分の気持ちを言葉で表現する機会を得る教師としてのかかわりをしている。	
		想像する楽しさを味わわせる絵本、紙芝居などによる読み聞かせ等を充実させている。	
	表現	豊かな感性を養う直接的な体験活動を充実させている。	
		感じたこと、考えたことを絵、音、動きなど様々な方法で表す遊びを設定している。	
	特別支援教育の充実	「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」等を作成・活用したり、関係機関との連携を図ったりしながら、教職員の共通理解の下、子どもの実態に応じた指導内容・方法を工夫している。	
評価の工夫・活用	子ども一人一人の発達課題に即した行動の意味を理解し、次の保育に生かす環境の再構成や手立ての工夫に取り組んでいる。		
	週案や日案及び保育カンファレンスをもとに、記録を累積したり教師相互の情報交換や意見交換をしたりして多面的・継続的に子ども一人一人のよさや発達を見取っている。		

特別支援教育の充実のために ～webコンテンツ等～

国立特別支援総合研究所、福島県特別支援教育センターのwebコンテンツ、県北教育事務所 등에서実施している「インクルーシブ教育システム推進事業」等を有効に活用し、特別支援教育の充実、推進を図る。

合理的配慮実践事例

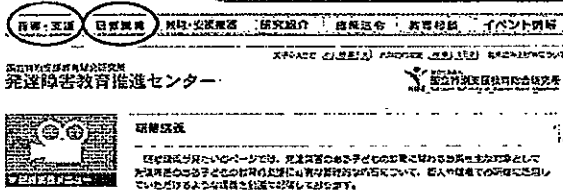


＜実践事例データベース＞

- ・ 障がい種別、校種、学級種ごとに、「合理的配慮」の実践事例が、約300件公開されている。
- ・ 「相談コーナー」が開設されており、都道府県、市町村、学校からの「インクルーシブ教育システム構築」に関する相談を受け付けている。
- ・ 「関連情報」には、「インクルーシブ教育システム構築」に関する様々な情報が掲載されている。

(リンク先URL) <http://inclusive.nise.go.jp>

指導・支援 Q & A



＜指導・支援＞

- ・ 子どものつまずきを「学習面」「行動面」「社会性」の側面からQ & Aで説明している。
- ・ 発達障がい等の特性を踏まえ、子どもを理解して指導・支援する方法を紹介している。

動画による子どもの理解

＜研修講義＞

- ・ 発達障がいのある子どもの教育的支援に必要な基礎的な内容について、研修等で活用できる講義動画が配信されている。
- ・ 研修講義を活用して想定される校内研修のモデルと、実際の研修講義の活用事例について紹介している。

授業づくり・学級づくり 等



＜コーディネートハンドブック＞

インクルーシブ教育システムを推進するために必要な情報を、各学校の実状に合わせ、「読みやすい」「実施しやすい」をコンセプトに作成されている。

- ・ 多様な学びの場の理解を深めるコーディネートアイデア
- ・ 気づきつながりを助けるコーディネートアイデア（ケース会議の進め方など）
- ・ 「障がいの児童生徒等への配慮」各教科等コーディネートアイデア 等

教材の活用

特別支援教育センターの教材・支援機器ポータルサイト画面から、国立特別支援教育総合研究所のサイトへリンクできる。



＜特別支援教育教材ポータルサイト＞

- ・ 障がい種別、ニーズ、教科等ごとに教材支援機器を検索することができ、同様に実践事例に関しても検索することができる。

相談・研修支援の申し込み

特別支援教育に関する相談や文書支援について

「インクルーシブ教育システム推進事業」  
をご利用ください



【まず電話でご相談ください】  
県北教育事務所 024-521-2818  
学校教育課課長室 特別支援教育担当



特別支援教育センターの機能を活用した相談支援・研修支援を行います

- ◎ 学校等からのニーズに応じて、県立特別支援学校の教員等を派遣

＜支援の内容について＞

- ・ 発達、学習、行動面で気になる子どもへの対応に関する助言（ケース会議による支援策、合理的配慮の検討など）
- ・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用
- ・ 授業づくりに関する助言
- ・ 障がい理解に関する授業支援
- ・ 特別支援教育に関する教員の研修